

海陽だより

荒尾海陽中学校

最終号(R8.3.24)

「挑戦！さらに一步前進」

文責：校長 右田尚久

運動場周辺の木々も新緑を増し、すっかり春らしい季節となってまいりました。本号をもちまして、「海陽だより」は最終号となります。

これまで『海陽だより』を通して、本校の教育の方向性や子供たちの活躍の様子を写真とともにお伝えしてきました。中には分かりにくい表現もあったかと思いますが、何卒ご容赦ください。

この1年間を振り返ると、最近では生徒たちの言動においても成長を感じる日々でした。あいさつを返すことのできない生徒が、自分から明るくあいさつをするようになったり、地域の方々から「中学生のあいさつは素晴らしい」との言葉を聞いたりと基礎基本であるあいさつで私も元気をもらいました。ありがとうございます。

この学校だよりも最後になりますが、一年間にわたり読んでくれた生徒たち、読んでいただいた保護者の皆様、学校のホームページを通して読んでいただいた地域の皆様に、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

「感謝」

校長として2年間、この荒尾海陽中学校にお世話になりました。本校で校長を務めることができたことは、37年にわたる教職員生活の中でも最もありがたく、そして幸せな時間であったと心から感じています。

日々、素直で前向きに学校生活を送る生徒たちの姿に力をもらい、また、温かくご理解とご協力を賜りました保護者の皆様、そして学校を支え続けてくださった地域の皆様のおかげで、本校の教育活動を進めることができました。あらためて深く感謝申し上げます。

私はこれまで、生徒たちの成長を「花」にたとえて考えてまいりました。地域は「土」、保護者は「肥料」、教職員は「水」、そして社会は「風」です。それぞれが大切な役割を担いながら、生徒たちの成長を支えています。

学校という花壇の中で、生徒たちは栄養豊かな土に生まれ、水や肥料を受けながら、日々たくましく成長していきます。そしてやがて、それぞれが自分らしい大輪の花を咲かせていきます。この荒尾海陽中学校には、そのために必要なすべての要素がしっかりと備わっていると感じております。

たとえ強い風が吹き、時代の流れの中で環境や状況が変化することがあっても、地域という「栄養のある土」が学校を支え続けてくださる限り、生徒たちはしっかりと根を張り、学校もまた必ず立ち上がり、力強く歩み続けていくことができるでしょう。これこそが、持続可能な「地域とともにある学校」の姿であると確信しております。

現在、多くの学校において「子供を育てる学校」から「子供が自ら育つ学校」への転換が求められています。その理念が、この荒尾海陽中学校には確かに息づいており、生徒たちは主体的に学び、互いに支え合いながら成長しています。そのような素晴らしい教育環境の中で勤務できたことは、私にとって大きな誇りです。

この2年間で学ばせていただいた多くのことを胸に刻み、次の異動先の学校におきましても、子供たちの一人一人の可能性を信じ、教育活動に全力で取り組んでいきます。

結びに、生徒の皆さん、保護者の皆様、地域の皆様のご健勝とご多幸、そして荒尾海陽中学校のさらなる発展を心よりお祈り申し上げます。2年間、本当にありがとうございました。

これもちまして、2年間の「海陽だより」を閉じさせていただきます。